

2026年3月期 決算概要

2026年5月29日

会社名 株式会社 JTB

URL <https://www.jtbcorp.jp/jp/company/accounts/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 山北 栄二郎

問合せ先責任者 (役職名) 広報室長 (氏名) 臼井 麻理

TEL (03)6878-2421

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (マスコミ向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2026年3月期の連結業績 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期	1,133,299	5.6	14,534	△2.2	17,345	4.2	12,070	40.6
2025年3月期	1,073,282	△1.2	14,862	△50.9	16,643	△51.4	8,584	△61.2

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2026年3月期	2,619 36	—	8.1	2.5	1.3
2025年3月期	1,862 85	—	6.4	2.5	1.4

(参考)持分法投資損益 2026年3月期 2,449百万円 2025年3月期 2,401百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期	711,501	162,269	22.4	34,585 94
2025年3月期	656,362	140,493	21.1	29,993 92

(参考)自己資本 2025年3月期 159,372百万円 2025年3月期 138,212百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年3月期	46,066	△71,194	△9,975	216,380
2025年3月期	5,234	△48,278	△6,469	250,028

2. 2027年3月期の連結業績予想 (2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	1,245,000	9.9	16,500	13.5

3. その他

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 有
新規 10社 (NTM Acquisition Corp.およびその子会社9社)

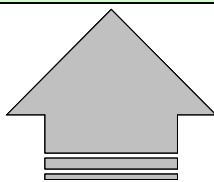
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 無
- ② ①以外の会計方針の変更 無
- ③ 会計上の見積りの変更 無
- ④ 修正再表示 無

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

お客様・事業パートナー



地球を舞台に、人々の交流を創造し、平和で心豊かな社会の実現に貢献する。

(株) J T B

ツーリズム

(株)JTBガイアレック (株)JTBグローバルアシスタンス ほか

エリアソリューション

(株)JTB商事 (株)JTBパブリッシング 沖縄JTB(株) ほか

ビジネスソリューション

(株)JTBコミュニケーションデザイン (株)JTBビジネストラベルソリューションズ ほか

グローバル

(株)JTBグローバルマーケティング&トラベル Kuoni Global Travel Services (Schweiz) AG
JTB Americas, Ltd. JTB Pte Ltd ほか

事業基盤機能

(株)JTBビジネストラנסフォーム (株)JTB総合研究所 (株)JTBデータサービス
NTM Acquisition Corp.

要約連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	250,028	216,380
受取手形及び営業未収金	140,377	156,011
有価証券	6,789	839
棚卸資産	4,500	4,522
前払金	46,115	46,606
立替金	20,533	15,547
その他流動資産	12,525	12,332
流動資産合計	480,867	452,237
固定資産		
有形固定資産	31,354	36,964
無形固定資産	17,222	86,392
投資有価証券	75,170	83,426
繰延税金資産	10,577	9,130
その他固定資産	41,172	43,352
固定資産合計	175,495	259,264
資産合計	656,362	711,501
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	131,576	132,938
借入金	7,815	1,211
未払法人税等	1,425	2,303
前受金	112,961	134,505
預り金	5,029	11,713
その他流動負債	156,386	159,023
流動負債合計	415,192	441,693
固定負債		
長期借入金	108	91
繰延税金負債	4,408	11,452
退職給付に係る負債	33,931	30,085
その他固定負債	62,230	65,911
固定負債合計	100,677	107,539
負債合計	515,869	549,232
純資産の部		
資本金	100	100
資本剰余金	804	797
利益剰余金	135,191	146,800
その他の包括利益累計額	2,117	11,675
非支配株主持分	2,281	2,897
純資産合計	140,493	162,269
負債・純資産合計	656,362	711,501

要約連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月 1日 至 2026年3月31日)
売上高	1,073,282	1,133,299
売上原価	809,595	848,980
売上総利益	263,687	284,319
販売費及び一般管理費	248,825	269,785
営業利益	14,862	14,534
営業外収益	5,160	5,478
営業外費用	3,379	2,667
経常利益	16,643	17,345
特別利益	548	1,031
特別損失	5,258	3,258
税金等調整前当期純利益	11,933	15,118
法人税等	2,498	2,176
当期純利益	9,435	12,942
非支配株主に帰属する当期純利益	851	872
親会社株式に帰属する当期純利益	8,584	12,070

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月 1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	11,933	15,118
減価償却費	8,016	9,266
売上債権の増減額 (△は増加)	10,853	△15,634
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,546	1,362
前受金の増減額 (△は減少)	4,481	21,649
その他	△26,503	14,305
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,234	46,066
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券・投資有価証券の純増減額 (△は増加)	△32,925	6,529
固定資産の取得による支出	△16,052	△18,332
固定資産の売却による収入	877	1,269
関係会社株式取得による支出	—	△55,771
その他	△178	△4,889
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,278	△71,194
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△9,284	—
自己株式の売却による収入	6,427	—
借入金の純増減額 (△は減少)	△2,571	△6,621
配当金の支払額	△461	△461
非支配株主への配当金の支払額	△173	△323
その他	△407	△2,570
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,469	△9,975
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,967	1,455
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△46,546	△33,648
現金及び現金同等物の期首残高	296,574	250,028
現金及び現金同等物の期末残高	250,028	216,380

(注) 現金及び現金同等物には取得日から3ヶ月以内に満期の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期投資を計上しています。

連 結 注 記 表

【連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の状況

- ・連結子会社の数：100社
- ・主要な連結子会社の名称
株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル・株式会社 JTB ガイアレック・
株式会社 JTB 商事・株式会社 JTB コミュニケーションデザイン・
株式会社 JTB パブリッシング・
Kuoni Global Travel Service (Schweiz) AG・JTB Americas, Ltd.・JTB Pte.Ltd.

(2) 非連結子会社の状況

- ・非連結子会社の数：1社
- ・非連結子会社の名称：株式会社日本交通公社
非連結子会社は、総資産、売上高、純損益及び利益剰余金がいずれも小規模であり、全体としても連結計算書類に重要な影響を与えていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の状況

- ・持分法適用会社の数：16社
- ・主要な持分法適用会社の名称
株式会社シーナッツ・ロッテ・ジェイティービー株式会社・株式会社はとバス

(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

- ・持分法非適用の非連結子会社の数：1社
- ・持分法非適用の関連会社の数：3社
- ・主要な持分法非適用の非連結子会社又は関連会社の名称
株式会社日本交通公社・JR 西日本レンタカー&リース株式会社
持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社は、それぞれ当期純損益（持分相当額）及び利益剰余金（持分相当額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

(3) 持分法適用手続に関する事項

持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度の財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち主要な海外子会社の決算日は12月31日であります。連結計算書類を作成するにあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、主要な国内子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

・満期保有目的債券

取得価額によっており、償却原価法を適用しております。

・その他有価証券

(a) 市場価格のない株式等以外のもの

時価法を適用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

(b) 市場価格のない株式等

移動平均法による原価法により評価しております。

② デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法を適用しております。

③ 棚卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法(連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)により評価しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産以外)・・・当社及び国内連結子会社は主として定率法、海外連結子会社は主として定額法を適用しております。

② 無形固定資産(リース資産以外)・・・定額法を適用しております。なお、ソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を適用しております。

③ リース資産・・・・・・・・・・・・・・・・・・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を適用しております。

(3) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金・・・・・・・・・・ 売上債権、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 役員退職慰労引当金・・・・ 役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- ③ 旅行券等引換引当金・・・・ 一定期間未引換のため収入計上した旅行券・商品券等の今後の引換行使に備えるため、当連結会計年度末における未引換実績率に基づく引換行使見込額を計上しております。

5. 重要な収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

(1) 募集型・受注型企画旅行等の旅行事業

旅行期間内で旅程管理という履行義務が充足されると判断していることから、旅行代金を対価として、旅行期間にわたり収益を認識しております。

(2) MICE 事業（イベントや会議等の運營業務の受託事業）

イベント開催という履行義務がイベント開催時に充足されると判断していることから、契約金額を対価として、イベント開催期間にわたり収益を認識しております。

(3) セールスプロモーション（プロモーションの受託事業）及びその他業務受託事業

請負契約に関する業務提供という履行義務がサービスの提供に応じて充足されると判断していることから、契約金額を対価として、当連結会計年度末までの発生原価が見積原価総額に占める割合又は契約期間に基づいて収益を認識しております。

6. のれんの償却に関する事項

のれんの償却については、連結子会社の実態に基づいた適切な期間で償却しております。

7. その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

- ① ヘッジ会計の方法・・・・・・・・・・ 繰延ヘッジ処理によっております。
なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理によっております。

- ② ヘッジ手段とヘッジ対象・・・・・・・・ 1) ヘッジ手段 為替予約
2) ヘッジ対象 海外旅行地上費に係る外貨建予定債務
- ③ ヘッジ方針・・・・・・・・・・・・・・ デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度額等を定めた内部規定に基づき、ヘッジ対象に係る為替相場変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。
- ④ ヘッジ有効性評価の方法・・・・・・・・ ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計を四半期ごとに比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。

(2) 退職給付に係る会計処理の方法

- ① 退職給付見込額の期間帰属方法・・・・退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
・・・・・・・・数理計算上の差異及び過去勤務費用については、主として各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として11年）による定額法により按分した額を、数理計算上の差異は発生の翌連結会計年度から、過去勤務費用は発生の連結会計年度から、それぞれ費用処理しております。
- ③ 小規模企業等における簡便法の採用・・・・一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(3) グループ通算制度・・・・・・・・・・・・グループ通算制度を適用しております。

(4) その他・・・・・・・・・・・・・・ 連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表の記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。

【収益認識に関する注記】

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記 5. 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

【会計上の見積りに関する注記】

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結計算書類にその金額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結計算書類に重要な影響を及ぼすリスクがあるものは、次のとおりです。

1. 固定資産の評価

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

有形固定資産 36,964 百万円 及び 無形固定資産 86,392 百万円

(2) その他の情報

当社及び当社グループ会社は著しく収益性の悪化した固定資産の帳簿価額について、使用価値又は正味売却価額を回収可能価額として減損損失 2,627 百万円を認識しております。

この使用価値の見積りに際しては、事業を取り巻く環境、今後の市場動向を踏まえて策定した事業計画等を用いたキャッシュ・フロー計画を使用しております。

固定資産評価の検討については、上述した仮定をもとに使用価値を算定しておりますが、今後市況が悪化し不測の事態が生じ、見積りにおいて用いた仮定の見直しが必要になった場合、翌連結会計年度の連結計算書類において、減損損失を認識する可能性があります。

2. 繰延税金資産の回収可能性の評価

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した額

繰延税金資産 9,130 百万円

(2) その他の事項

繰延税金資産は、税務上の繰越欠損金のうち未使用のものおよび将来減算一時差異を利用できる課税所得が生じる可能性が高い範囲内で認識しております。

当該課税所得が生じる可能性の判断においては、将来獲得しうる課税所得の時期および金額を合理的に見積もり、金額を算定しております。

当該見積もりは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、予測不能な事態により実際に発生した課税所得の時期および金額が見積もりと異なった場合、翌連結会計年度の連結計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

【連結貸借対照表に関する注記】

1. 有形固定資産の減価償却累計額 54,117 百万円

2. 土地の再評価

「土地の再評価に関する法律」（平成 10 年 3 月 31 日公布法律第 34 号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。

(1) 再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」（平成 10 年 3 月 31 日公布政令第 119 号）第 2 条第 4 号に定める路線価に基づいて合理的な調整を行って算出しております。

(2) 再評価を行った年月日

2002 年 3 月 31 日

(3) 再評価を行った土地の当連結会計年度末における時価と再評価後の帳簿価額との差額

310 百万円

3. コミットメントライン契約

当社は、効率的で安定した運転資金の調達を行うため、取引銀行 3 行との間でコミットメントライン契約を締結しております。当連結会計年度末におけるコミットメントライン契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

コミットメントライン契約の総額	20,000 百万円
借入実行残高	一百万円
差引額	20,000 百万円

4. 顧客との契約から生じた債権、契約資産及び契約負債の残高

	当連結会計年度（単位：百万円）
顧客との契約から生じた債権	153,119
契約資産(*1)	2,837
契約負債(*2)	134,335

(*1) 連結貸借対照表上、契約資産は受取手形及び営業未収金に含まれております。

(*2) 連結貸借対照表上、契約負債は前受金に含まれております。

5. 保証債務

以下の会社の金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

株式会社旅館明治 200 百万円

【連結損益計算書に関する注記】

1. 売上高の区分情報

売上高のうち、顧客との契約から生じる収益は1,132,586百万円であります。

2. 減損損失

今後の業績見通し等を勘案した結果、収益性が著しく低下した固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(2,627百万円)に計上しております。主な内容は、ソフトウェア2,428百万円であります。

【連結株主資本等変動計算書に関する注記】

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	4,608,000	—	—	4,608,000

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2025年6月30日 定時株主総会	普通株式	461	100	2025年3月31日	2025年7月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議 (予定)	株式の 種類	配当金の 総額 (百万円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2026年6月30日 定時株主総会	普通株式	691	利益 剰余金	150	2026年 3月31日	2026年 7月1日

【金融商品に関する注記】

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については信用リスクを限定し、概ね銀行預金にて運用しております。

営業活動に必要な資金は自己資金を充当するほか、銀行等金融機関からの借入により調達しております。借入金の使途は、運転資金となっております。

受取手形及び営業未収金に係る顧客信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスクの低減を図っております。また、投資有価証券は、主として株式及び債券であり、時価の把握を行っております。

支払手形及び営業未払金は、1年以内の支払期日であり、特段リスクは把握しておりません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等（連結貸借対照表計上額23,290百万円）は「投資有価証券」には含めておりません。また、現金は注記を省略しており、預金、受取手形及び営業未収金、短期貸付金、立替金、支払手形及び営業未払金、短期借入金、未払金、未払費用、未払法人税等及び預り金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

	連結貸借対照表 計上額 (*1) (百万円)	時価 (*1) (百万円)	差額 (百万円)
有価証券	839	839	—
投資有価証券	60,136	57,926	△2,210
長期貸付金	1,366	754	△612
差入保証金	11,511	7,655	△3,856
長期借入金 (*2)	(309)	(289)	(△20)
預り保証金	(6,326)	(3,111)	(△3,215)
長期未払法人税等	(6)	(6)	—
デリバティブ取引	2,810	2,810	—

(注) 連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上している投資事業有限責任組合への出資（連結貸借対照表計上額2,878百万円）については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日）第24-16項に基づき、注記への記載を省略しております。

(*1) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(*2) 一年内返済予定の長期借入金は長期借入金に含めて表示しております。

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	33,016	—	—	33,016
うち、株式	33,016	—	—	33,016
デリバティブ取引	—	2,810	—	2,810

(2) 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券	—	839	—	839
うち、債券	—	839	—	839
投資有価証券	—	24,790	120	24,910
うち、債券	—	24,790	120	24,910
長期貸付金	—	754	—	754
差入保証金	—	7,655	—	7,655
長期借入金	—	(289)	—	(289)
預り保証金	—	(3,111)	—	(3,111)
長期未払法人税等	—	(6)	—	(6)

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

・有価証券

債券は、活発な市場で取引されているものをレベル1、それ以外をレベル2の時価に分類しております。

- ・投資有価証券

株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっています。活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1に分類しており、主に上場株式がこれに含まれます。取引金融機関から提示された価格を用いているものはレベル2に分類しており、主に社債がこれに含まれます。それ以外をレベル3の時価に分類しております。

- ・デリバティブ取引

取引金融機関から提示された価格により時価としており、レベル2の時価に分類しております。

- ・長期貸付金、差入保証金、長期借入金、預り保証金、長期未払法人税等

将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引いて算定する方法によっており、レベル2の時価に分類しております。

【退職給付に関する注記】

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金基金制度及び退職一時金制度を採用しております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。さらに当社及び一部の連結子会社は、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	91,322 百万円
勤務費用	2,951 百万円
利息費用	1,505 百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△2,435 百万円
退職給付の支払額	△7,729 百万円
その他	651 百万円
退職給付債務の期末残高	86,265 百万円

(注) 「その他」には、為替換算差額等が含まれております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	77,261 百万円
期待運用収益	1,872 百万円
数理計算上の差異の当期発生額	34 百万円
事業主からの拠出額	740 百万円
退職給付の支払額	△5,401 百万円
その他	371 百万円
年金資産の期末残高	74,877 百万円

(注) 「その他」には、為替換算差額等が含まれております。

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	57,008 百万円
年金資産	△74,877 百万円
	<hr/>
	△17,869 百万円
非積立型制度の退職給付債務	29,257 百万円
	<hr/>
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	11,388 百万円
退職給付に係る負債	30,085 百万円
退職給付に係る資産	18,697 百万円
	<hr/>
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	11,388 百万円
	<hr/>

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	2,951 百万円
利息費用	1,505 百万円
期待運用収益	△1,872 百万円
数理計算上の差異の費用処理額	△35 百万円
過去勤務費用の費用処理額	△13 百万円
その他	18 百万円
	<hr/>
確定給付制度に係る退職給付費用	2,554 百万円
	<hr/>

(注1) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。

(注2) 「その他」には厚生年金基金への掛金拠出額等が含まれております。

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識数理計算上の差異	9,314 百万円
未認識過去勤務費用	51 百万円
	<hr/>
合計	9,365 百万円
	<hr/>

(6) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	52.0%
株式	12.2%
現金及び預金	5.2%
その他	30.6%
	<hr/>
合計	100%
	<hr/>

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	主として 2.1%
長期期待運用収益率	主として 2.5%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、2,224 百万円であります。

【税効果会計に関する注記】

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

繰延税金資産

繰越欠損金（注2）	28,420	百万円
旅行券等引換引当金	14,629	
退職給付に係る負債	4,003	
減損損失	4,534	
未払賞与	4,746	
投資有価証券評価損	1,766	
旅行積立前受割引額	989	
その他	<u>7,086</u>	
繰延税金資産	小計	66,173
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額（注2）	△26,679	
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△26,272	
評価性引当額	小計	<u>△52,951</u>
繰延税金資産	合計	<u>13,222</u> 百万円

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	3,694	
退職給付に係る資産	267	
その他の無形固定資産	6,157	
その他	<u>5,427</u>	
繰延税金負債	合計	<u>15,545</u> 百万円
繰延税金負債の純額（注1）	<u>2,323</u>	百万円

（注1）当連結会計年度における繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

繰延税金資産	9,130 百万円
繰延税金負債	11,452 百万円

上記のほか、「再評価に係る繰延税金負債」として計上している土地の再評価に係る繰延税金負債の内訳は次のとおりであります。

再評価に係る繰延税金資産	
再評価に係る繰延税金資産	520 百万円
評価性引当額	<u>△520</u>
合計	<u>—</u> 百万円
再評価に係る繰延税金負債	
再評価に係る繰延税金負債	<u>158</u> 百万円
合計	<u>158</u> 百万円
再評価に係る繰延税金負債の純額	<u>158</u> 百万円

(注2) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

当連結会計年度 (2026 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	1 年以内	1 年超 2 年以内	2 年超 3 年以内	3 年超 4 年以内	4 年超 5 年以内	5 年超	合計
税務上の繰越欠損金 (*1)	1,311	29	213	129	8,342	18,395	28,420
評価性引当額	△552	△8	△202	△128	△8,332	△17,457	△26,679
繰延税金資産	759	21	11	1	10	939	(*2) 1,741

(*1) 税務上の繰越欠損金は法定実効税率を乗じた額であります。

(*2) 税務上の繰越欠損金 28,420 百万円 (法定実効税率を乗じた額) について、繰延税金資産 1,741 百万円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断した部分については、評価性引当額を認識しておりません。

2. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社及び一部の国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しています。また、法人税及び地方法人税に係る税効果会計に関する会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第 42 号 2021 年 8 月 12 日)に従っています。

【1株当たり情報に関する注記】

1. 1株当たり純資産額 34,585円 94銭

1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	当連結会計年度末 (2026年3月31日)
連結貸借対照表上の純資産額	162,269百万円
連結貸借対照表上の純資産額から 控除する金額	2,897百万円
(うち非支配株主持分)	(2,897百万円)
普通株式に係る期末の純資産額	159,372百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数	4,608,000株

2. 1株当たり当期純利益 2,619円 36銭

1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
連結損益計算書上の当期純利益	12,070百万円
普通株主に帰属しない金額	—
普通株式に係る当期純利益	12,070百万円
普通株式の期中平均株式数	4,608,000株

【企業結合等に関する注記】

(NTM Acquisition Corp.の株式取得による企業結合)

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業内容

被取得企業の名称 NTM Acquisition Corp.

事業の内容 ツーリズム業界を対象としたB2Bメディア事業

② 企業結合を行った主な理由

グローバル事業展開の加速およびビジネスモデルの変革を図るとともに、同社の有する業界情報・ネットワーク・マーケティングソリューションを活用して当社グループの成長を加速し、ツーリズム産業の発展に貢献することを図るものです。

③ 企業結合日

2025年10月1日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とした資本拠出を伴う株式譲渡契約に基づく取得

⑤ 結合後企業の名称

結合後企業の名称に変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が、現金を対価とした株式取得により、議決権の100%を保有したためです。

(2) 連結計算書類に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年10月1日から2025年12月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	55,006百万円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	765百万円
取得原価		55,771百万円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん

38,212百万円

② 発生原因

取得原価が企業結合日の受入れ資産の時価合計を上回ったため、その差額をのれんとして認識しています。

③ 償却方法及び償却期間

11年にわたる均等償却

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	5,600百万円
固定資産	2,254百万円
資産合計	7,855百万円
流動負債	15,100百万円
固定負債	27,823百万円
負債合計	42,924百万円

(6) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法
当該金額の概算額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(7) のれん以外の無形固定資産に配分された金額及びその主要な種類別の内訳並びに全体及び主要な種類別の償却期間

①主要な種類別の金額

顧客関連資産	15,272 百万円
商標権	7,581 百万円

②主要な種類別の償却期間

顧客関連資産	11年にわたり均等償却いたします。
商標権	20年にわたり均等償却いたします。

セグメント情報

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位: 百万円)

	ツーリズム	エリア ソリューション	ビジネス ソリューション	グローバル	事業基盤機能	計	消去又は 全社	連結
I . 売上高								
外部売上高	673,528	83,587	134,128	193,245	5,904	1,090,392	△ 17,110	1,073,282
セグメント間の売上高	2,296	5,589	4,206	65,846	15,224	93,161	△ 93,161	-
計	675,824	89,176	138,334	259,091	21,128	1,183,553	△ 110,271	1,073,282
II . 営業費用	664,306	86,353	126,254	252,846	36,590	1,166,349	△ 107,929	1,058,420
III . 営業利益又は損失	11,518	2,823	12,080	6,245	△ 15,462	17,204	△ 2,342	14,862

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位: 百万円)

	ツーリズム	エリア ソリューション	ビジネス ソリューション	グローバル	事業基盤機能	計	消去又は 全社	連結
I . 売上高								
外部売上高	682,236	86,535	148,429	219,529	12,876	1,149,605	△ 16,306	1,133,299
セグメント間の売上高	1,648	4,233	3,999	65,278	10,378	85,536	△ 85,536	-
計	683,884	90,768	152,428	284,807	23,254	1,235,141	△ 101,842	1,133,299
II . 営業費用	669,989	86,805	138,147	278,039	49,522	1,222,502	△ 103,737	1,118,765
III . 営業利益又は損失	13,895	3,963	14,281	6,768	△ 26,268	12,639	1,895	14,534

(注)

1. 報告セグメントの概要

当社は「ツーリズム」、「エリアソリューション」、「ビジネスソリューション」、「グローバル」、「事業基盤機能」の5つを報告セグメントとしており、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

2. 各報告セグメントの主な事業内容は以下のとおりです。

- (1) ツーリズム: 個人・法人のお客様に対する旅行の購買・旅先での体験に至るまでのソリューション全般の提供
- (2) エリアソリューション: 観光事業者及び自治体のお客様に対するソリューションの提供およびエリア開発
- (3) ビジネスソリューション: 法人のお客様に対する旅行だけに捉われない幅広いソリューションの提供
- (4) グローバル: 日本を含む全世界のお客様に対する旅行事業(発・受)、およびグローバルレベルでのソリューションの提供
- (5) 事業基盤機能: コーポレート機能群として事業および経営の基盤を担う機能

3. 測定方法の変更に関する事項

当連結会計年度より、測定方法を変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の測定方法に基づき作成したものを開示しております。